

<紫香楽校舎>

1 概要

紫香楽校舎の児童生徒は、小学部1年生1名、2年生2名、3年生1名、4年生1名、中学部1年生2名、2年生2名、3年生1名の計10名が在籍しており、全員が校舎に隣接している独立行政法人国立病院機構紫香楽病院に入院し、生活している。肢体不自由と併せて知的障害や視覚障害、聴覚障害、病弱などの重複障害がある児童生徒たちである。呼吸器疾患があり、人工呼吸器による呼吸管理、痰の吸引、酸素吸入など日常的に医療が必要な重症心身障害児童生徒もおり、実態に合わせてベッドサイドでの授業を行っている。肺炎などの疾患にかかりやすいなど、健康面で配慮の必要な児童生徒もいる。医療および生活面においては、病棟と療育指導室のスタッフとの連携を大切にしている。

2 教育方針

紫香楽校舎では、児童生徒の障害や健康の実態から、まずは健康な身体づくりを基盤に据えることを大切にしている。病棟生活の中で経験不足になりがちなことから、学校生活では多くの体験ができるような授業を計画し、その中で教師や周りの大人と安心して活動できる関係を築き、コミュニケーションの力をつけていきたい。また、そのために児童生徒一人ひとりの課題を明確にし、それぞれの課題に応じた取り組みを行っている。

3 教育目標

◎一人ひとりがお互いの存在に気づき、気持ちを伝えて、強く豊かに生きる力を育む。

- (1) 生理的基盤を整え、健康な身体づくりをめざし、安定した体調を維持する中で生きる力を育む。
- (2) 人からの働きかけを受け入れ、安心できる関係を築く中で、感覚、運動機能の向上をはかり、主体的に身体を動かそうとする力を培う。
- (3) 興味、関心を広げ、物事にかかわり、物事に向かう力を豊かにする。
- (4) 生活経験、社会経験を広げ、人とのかかわりの中で思いをふくらませ、伝える力を豊かにする。

4 学部のスローガン

「伝えあおう気持ちと気持ち」

5 教育課程の特色

紫香楽校舎の児童生徒は全員、肢体不自由がある。心身の状態を整える事が基本となることから、各児童生徒の実態に応じ、自立活動との関連を十分に図ることを大切にしたい日課としている。基礎学級は課題や生活年齢の幅が広いと、児童生徒の課題に応じ、合同で授業を行うなど、集団を工夫している。また、児童生徒の実態に応じて個別学習にも取り組んでいる。

児童生徒の生活の場は病棟が中心である。その点を考慮し、不足する経験や、卒業後の病棟での生活を豊かにする視点を大切にしている。

紫香楽校舎 教育課程表(令和6年度)

種別		肢・重				
各教科科目等	部・学年	小学部			中学部	
		ベッドサイド 小学部 1～6年	小学部 1～3年	小学部 4～6年	ベッドサイド 中学部 1～3年	中学部 1～3年
各教科等を含 めた指導	日常生活の指導	7.5	14.5	14	7.5	12.5
	作業学習					
各教科	生活	1	1	1		
	国語	0.5	0.5	0.5	0.5	1
	社会				0.5	0.5
	算数	0.5	0.5	0.5		
	数学				0.5	1
	理科				0.5	0.5
	音楽	1	2	2	1	2
	図画工作	1	1	1		
	美術				1	1
	体育	1	1	1		
	保健体育				1	1
	職業・家庭				(*)	(*)
特別の教科	道徳	(*)	(*)	(*)	(*)	(*)
総合的な学習の 時間					0.5	1
特別活動	学級活動 児童会活動	0.5	0.5	1		
特別活動	ホームルーム活動 (SHR・LHR) 生徒会活動				0.5	1
自立活動	自立活動	7	7	8	7.5	8.5
週合計		20	28	29	21	30

* 「特別の教科 道徳」は、「日常生活の指導」の中で取り扱う。

**「職業・家庭」は「各教科等を含めた指導」の中で行う。

「小学校に準ずる教育課程」「中学校に準ずる教育課程」については、本校小学部、中学部に準ずる。